第8回冬期討論会「集塵」開催に当って

井伊谷 鋼 一*

Koichi Iinoya

討論会のテーマとして粉体工学研究会が集じんをとりあげたのは始めてであるが、当会としてはグループ会の一つに集じん(測定)グループ会をもち過去数年にわたって毎年2, 3回のインフォーマルな集まりを行なってきた。始めは主に測定法に関する検討などであったが、最近集じん全般に間口をひろげて、その都度適当な話題を提供してお互いの知識の交流をはかってきたつもりである。今後ともこの会合はつづけてゆきたいと考えているので、興味はあるが、あまりまとまっていなくて、正式に発表する前に皆に検討してもらいたいとか、あるいは正式に発表されたが、内容をやさしくくわしく話して皆にわかってもらいたいとか、という話題をおもちの方はどしどし御連絡頂いて、少人数で気楽になごやかに検討し理解をふかめる会合としたいと思っている。なお連絡は世話係をしている筆者までお願いできれば幸いである。

以上が集じんグループ会の紹介と御参加のすすめであるが、特にノルマはないので開催通知を御希望の方も御一報頂けば次回からグループ員として案内を差上げたので遠慮なく御申出頂きたい。

さて討論会は研究発表を春に募集して、夏に査読編集を行ない、冬に発行される本号にのせて、これをテキストとして講演発表と質疑応答および討論をゆっくり行なおうという会合である。ほかに若干の製品紹介講演をメー

カーの方々にやって頂くとともに、展示会を併催したこともあったが、本年からは展示会はやめてせいぜいカタログ配布くらいにしようということになった。研究発表は一応編集幹事会で査読を行なっているが、本質的なあやまりや形式上の不備を訂正するのが主で、著者の考え方の独自性にはなるべく干渉しないようにしているようである。したがって各人の意見の相違による討論は会誌上で寄書などによるか、あるいは本討論会において行なうことが望まれる。その意味において集じんグループ会よりももう少し広範囲の聴衆を交えて、やや公式の場としてディスカッションの交流が起こることを期待したい。

集じん技術は公害対策として大きくクローズ・アップされてきたし、公害対策としては一番古くから一応技術を確立していた分野といえよう。しかし法的規制や勧告基準がきびしくなるにつれ、技術面の開発あるいは基礎研究の不足不備ははっきりしてきた。たとえばその顕著な例が性能測定法で、流量にしても濃度にしても信頼性があるって便利な方法はなく、現場でも管理面でも困却している現状であろう。集じん機そのものも合理的な必要にして充分な設計や運転の最適方策ができ上ってはいなくて、経験と常識にたよっている。これらをより工学的に確立するとともに、新形式の開発にも大に努力しなければならないと思う。対象プロセス別の最適機種決定と安価簡便な乾式中性能集じん機開発もぜひ早急に解決したい問題である。そのような方向にこの討論会から少しでも光をあたえることができれば幸いである。

昭和47年9月18日受理

* 京都大学工学部化学工学教室教授

(〒606 京都市左京区吉田本町) TEL 075-751-2111